

**【快樂教育】元家庭教師による五年ぶりの再会・上書き演技指導
～元彼に『つまらない女』と振られた貴女を、快樂漬けの実技で執着補習していく～**

サンプル（一部抜粋）

「...あれ？もしかしてユリちゃん？」

「ああ、やっぱり。変わってないからすぐに気付いたよ。」

「先生のおかげで合格出来たって...それはちがうよ。
頑張ったのはユリちゃんだよ」

「...元彼につまらない女だって言われたって...？
それは何に対して？」

「...夜の反応...か。」

「良い反応が出来なくて演技なのがバレるって...
それはユリちゃんは悪くないよ...？」

「だって演技しなきゃいけないくらい
気持ちよくないんだろ？」

「なら、教えてあげようか。
どう演技すればいいのか」

「（耳元で囁く）今から授業が終わるまで、僕の言う事を必ず聞く事」

「いいね？
高校生の時も、僕の言う通り勉強していただろ？ ...いい子だ」

「演技指導はまだ何もしていないのに、随分艶っぽい声を出すんだね」

「...もっと聞かせて」

「...こんなに良い反応をするのに、
『つまらない女』なんて、元彼には随分な評価をされたもんだね」

「いい？ その声が...本当に気持ちがいい時に出る声だ。
よく覚えておくように」

「（耳元で）...今のイく時の声の出し方、100点満点だよ。
高校の時の模試でも、こんなに良い結果は出せてなかったんじゃない？」

「...『快樂』の予習が足りてないんだね。
先生が朝まで、じっくり補習してあげるよ」